

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2017 年 10-12 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲7 となり、消費税引き上げに伴う駆け込み需要があった平成 26 年 1-3 月期とほぼ同水準まで回復した。経営上の問題点を見ると、前回同様「従業員の不足」が 1 位となり、深刻な人手不足が続いている。

2017 年 10-12 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 17%で前回調査（2017 年 7-9 月期 21%）より 4 ポイント改善、「好転」とした企業は 10%で前回調査（7%）より 3 ポイント改善した。景況判断 DI は▲7 となり、前回調査（▲14）より 7 ポイント改善した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2017 年 7-9 月期に対して、

- ・売上高 DI は 16 で、16 ポイント改善
 - ・処理量 DI は 13 で、16 ポイント改善
 - ・契約単価 DI は 2 で、3 ポイント改善
 - ・営業利益 DI は 7 で、16 ポイント改善
 - ・資金繰り DI は 2 で、4 ポイント改善
 - ・借入難易度 DI は 9 で、6 ポイント改善
 - ・設備投資 DI は 1 で、3 ポイント改善
 - ・従業員数 DI は▲3 で、2 ポイント改善
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲16 となり、9 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 3.1%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 2.8%減となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.95%で前回調査（5.56%）より改善した。過去最高を更新した。
- 経営上の問題点としては、「従業員の不足」21.3%（前回 19.9%）が前回同様 1 位となり、深刻な人手不足が続いている。

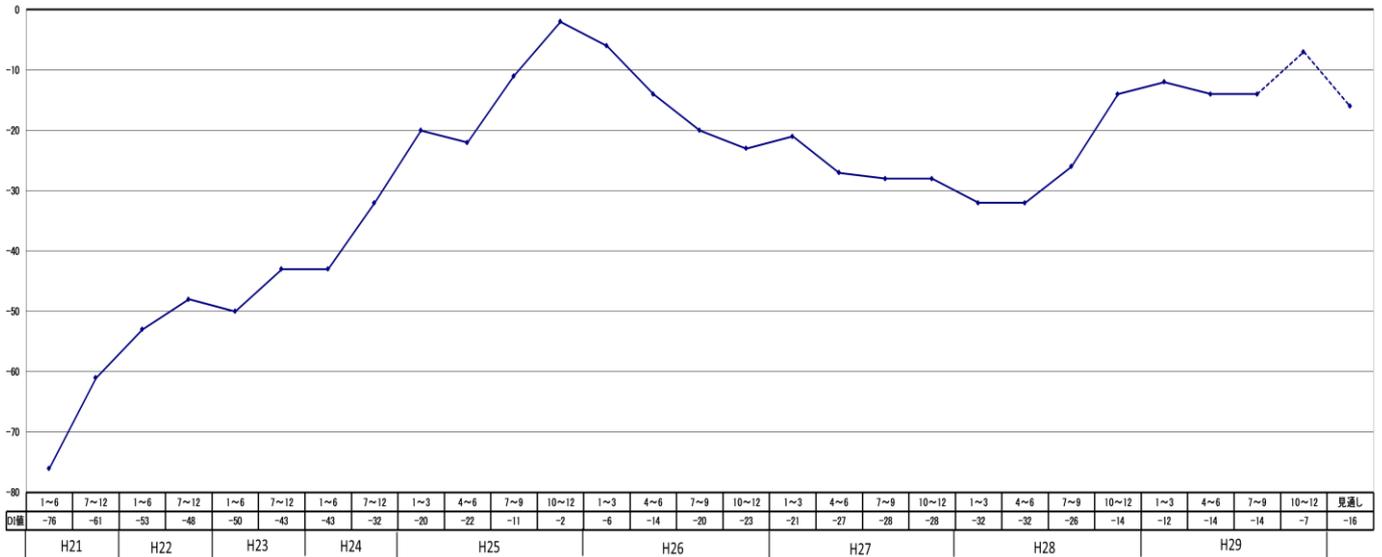
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

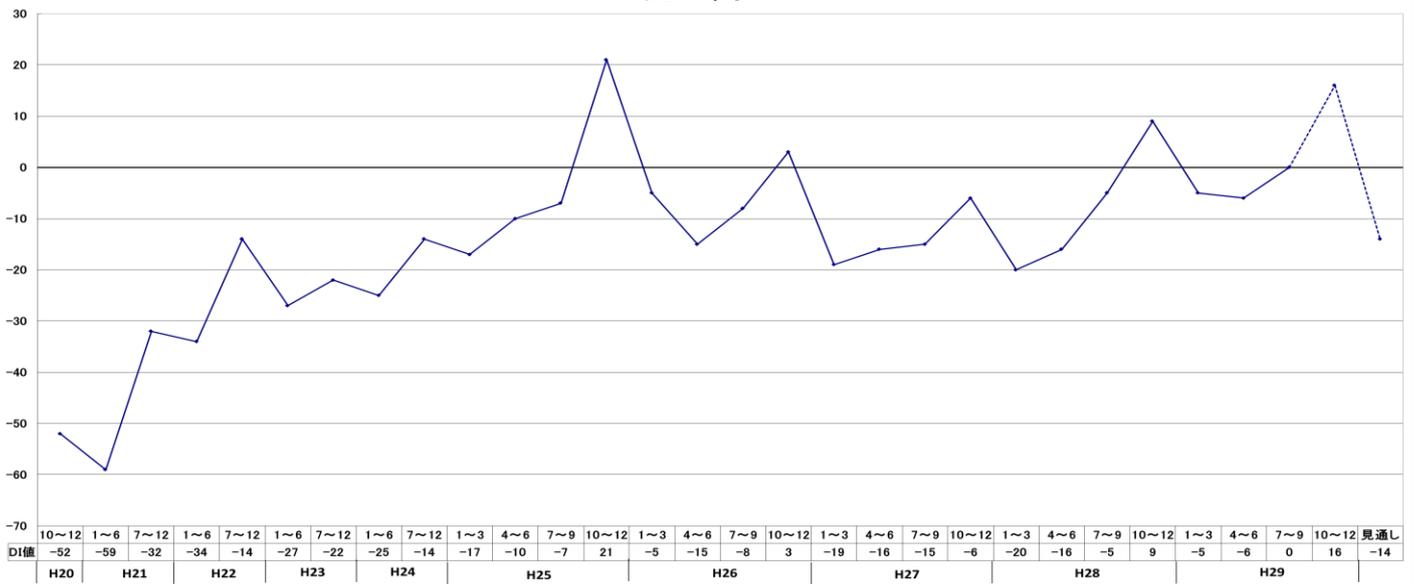
〔調査の要領〕

- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 30 年 1 月 10 日～2 月 28 日
- 回答企業数：348 社

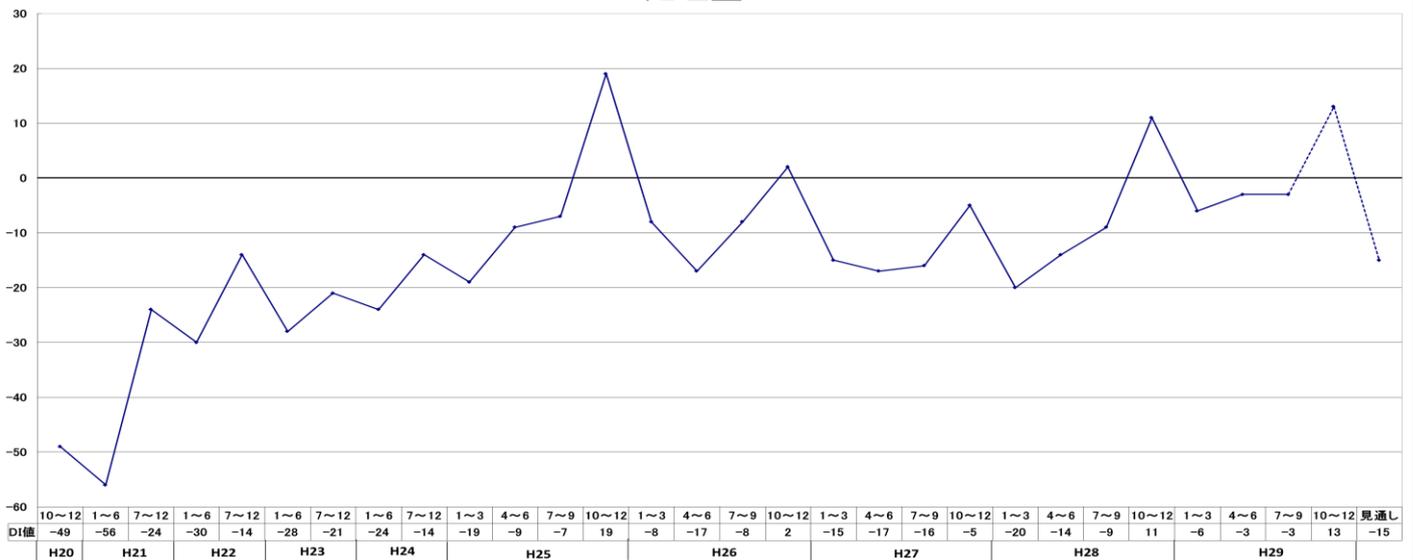
景況判断DI



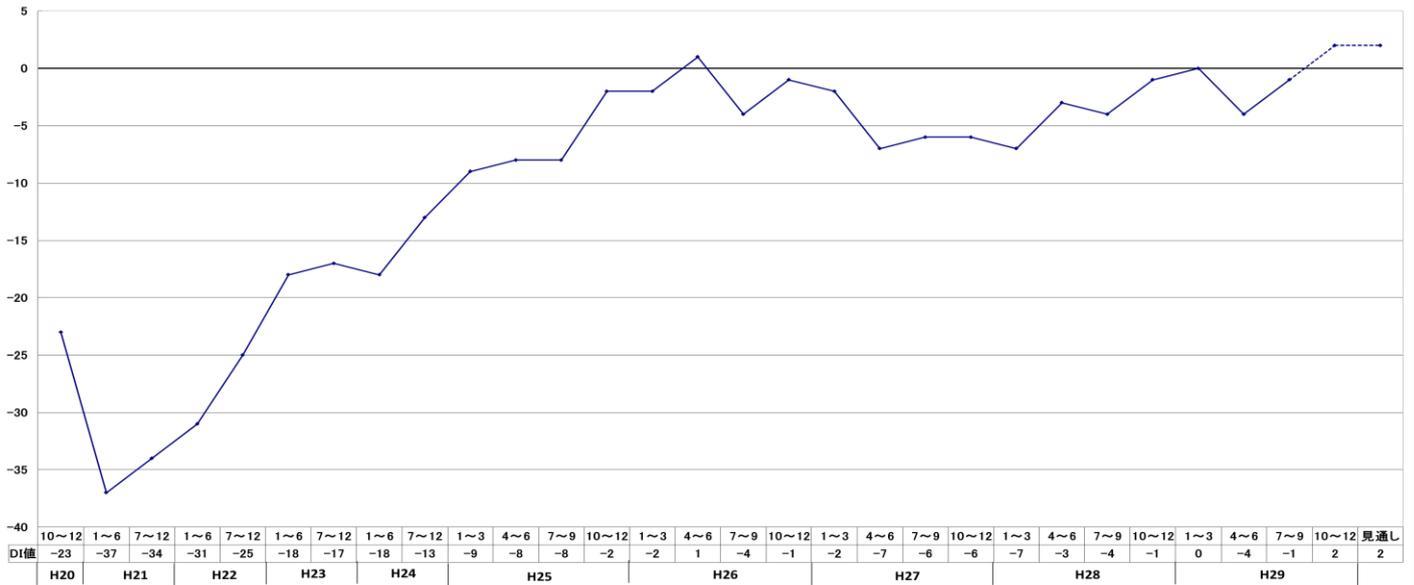
売上高DI



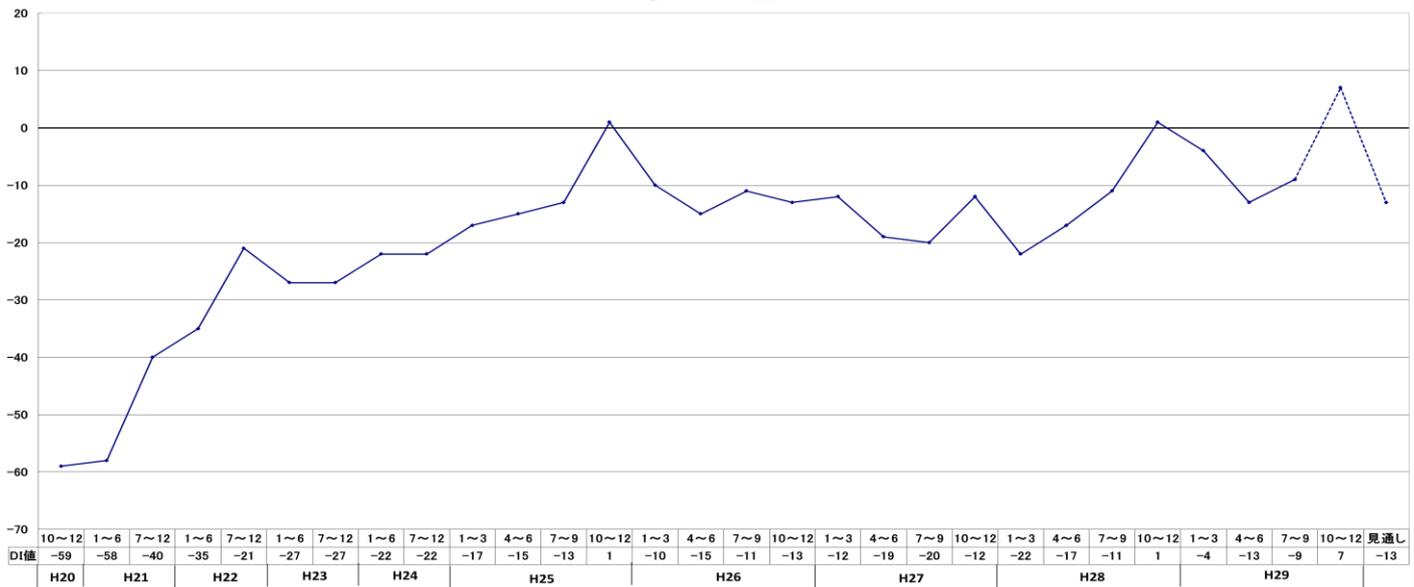
処理量DI



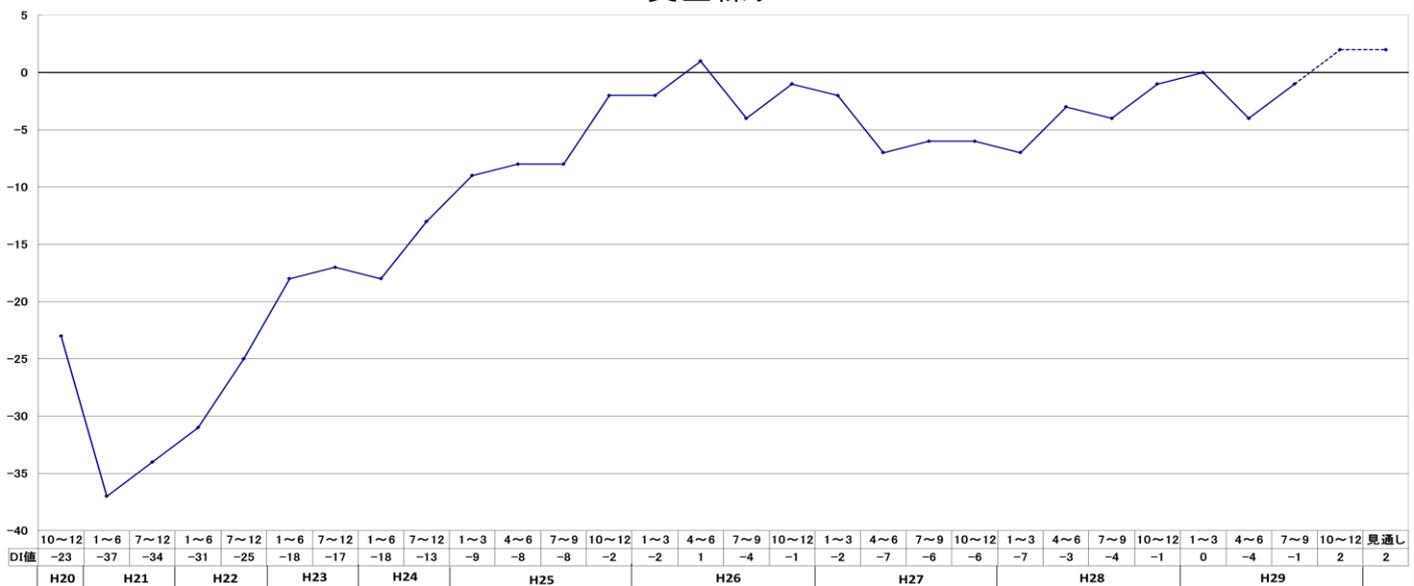
契約単価DI



営業利益DI

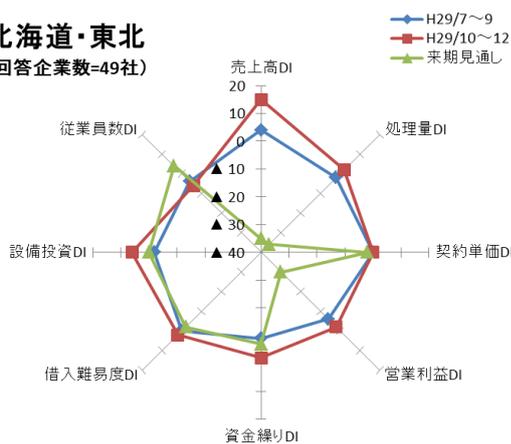


資金繰りDI

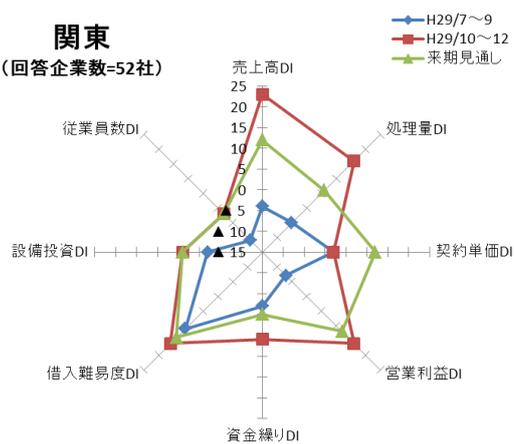


【地域別レーダーチャート】

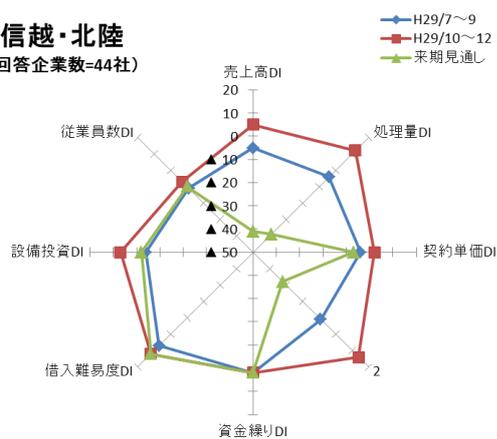
北海道・東北 (回答企業数=49社)



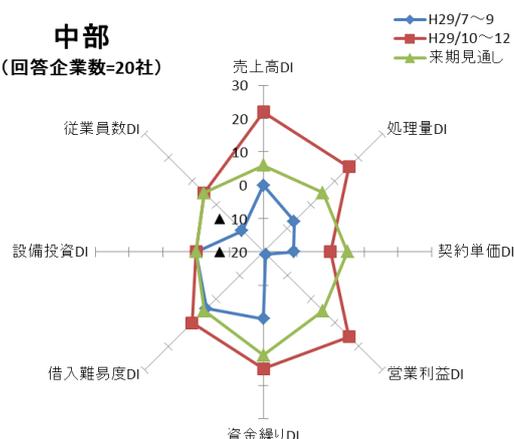
関東 (回答企業数=52社)



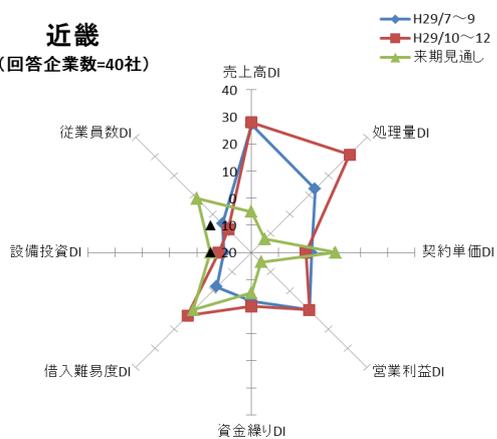
信越・北陸 (回答企業数=44社)



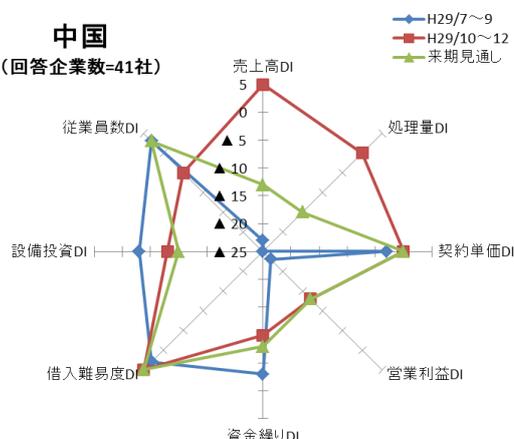
中部 (回答企業数=20社)



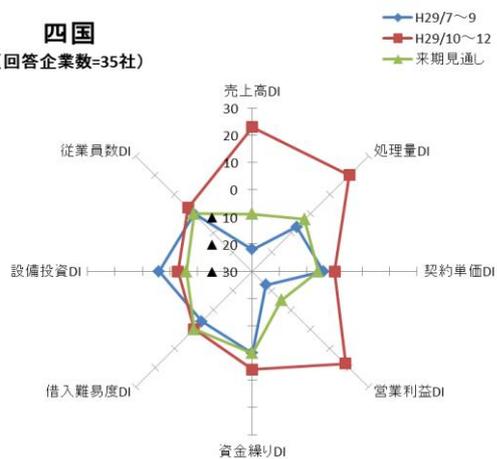
近畿 (回答企業数=40社)



中国 (回答企業数=41社)



四国 (回答企業数=35社)



九州・沖縄 (回答企業数=67社)

